

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

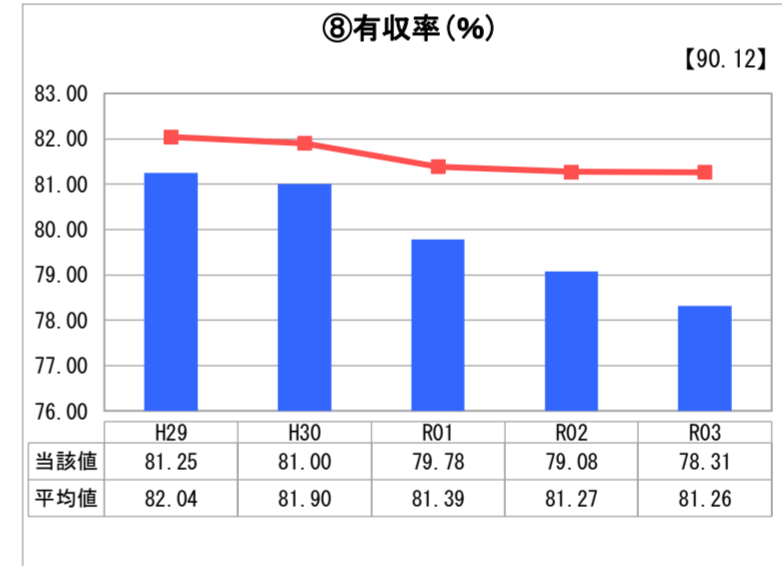
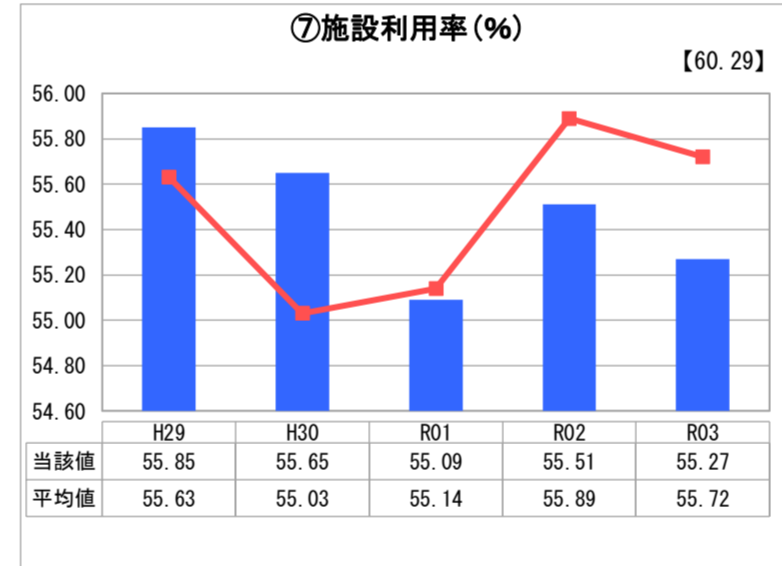
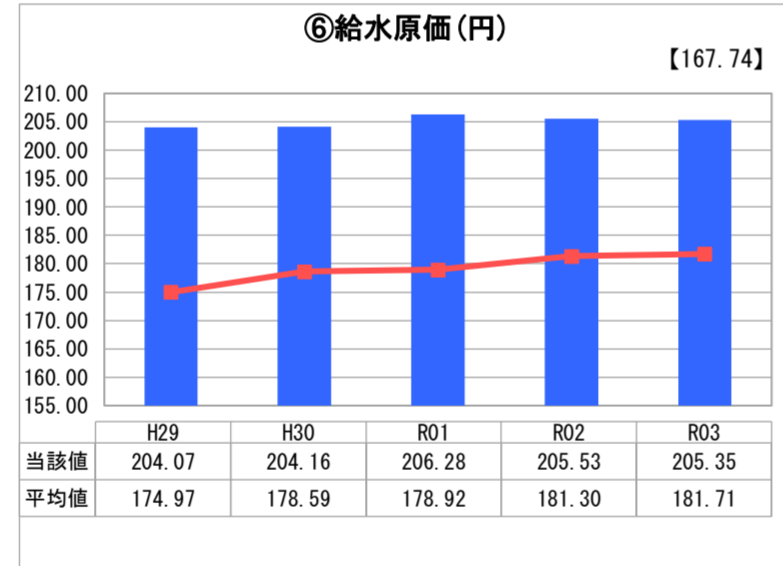
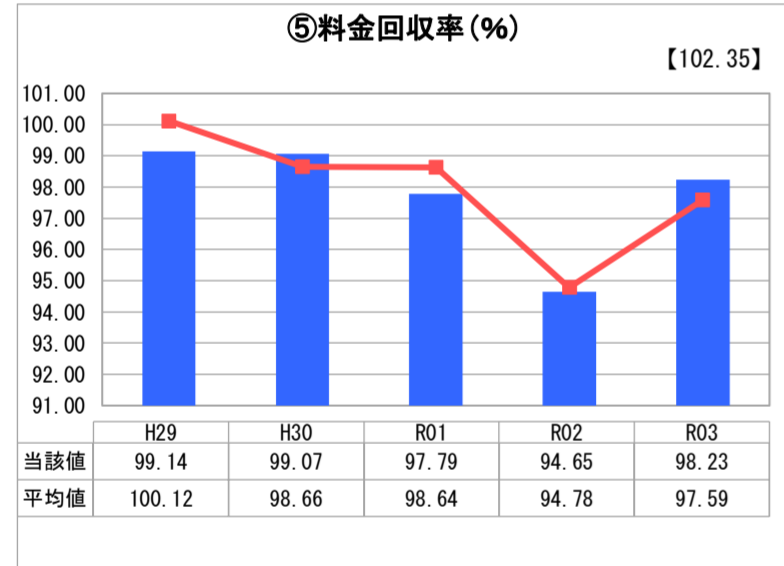
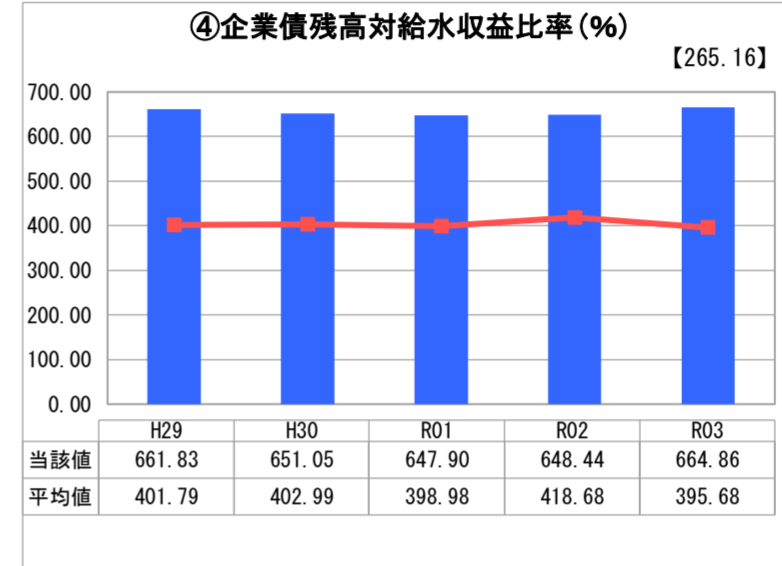
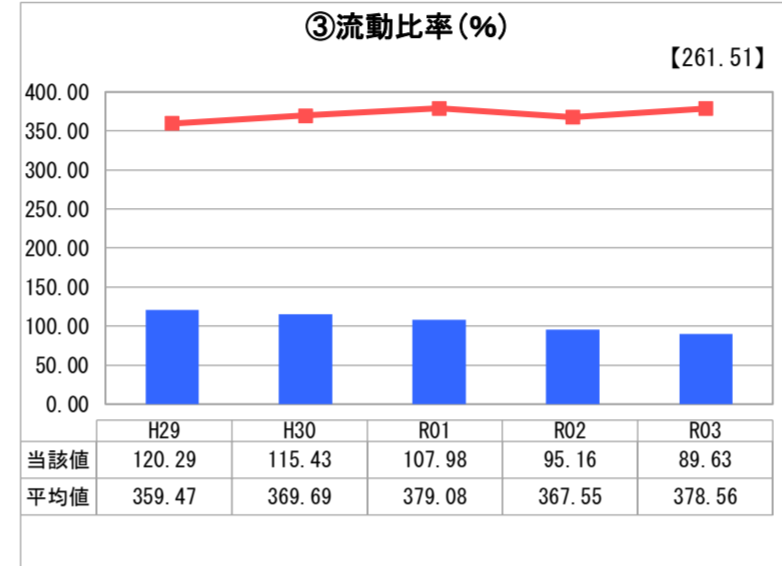
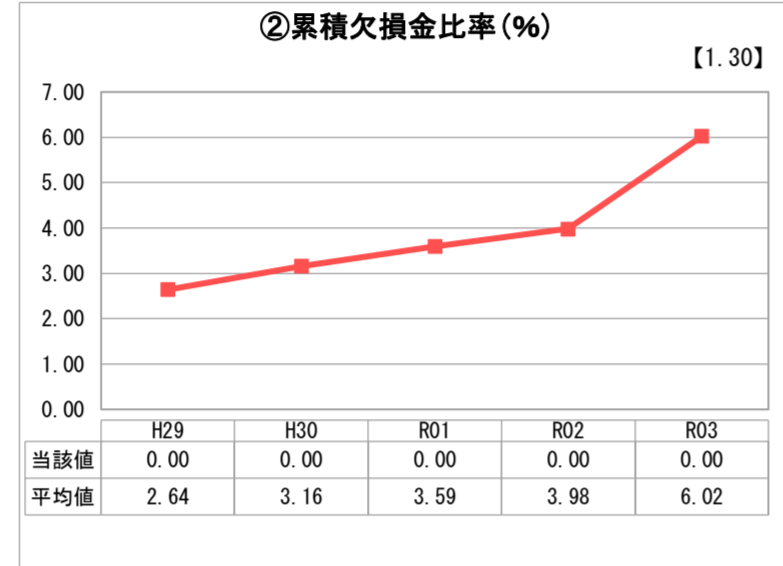
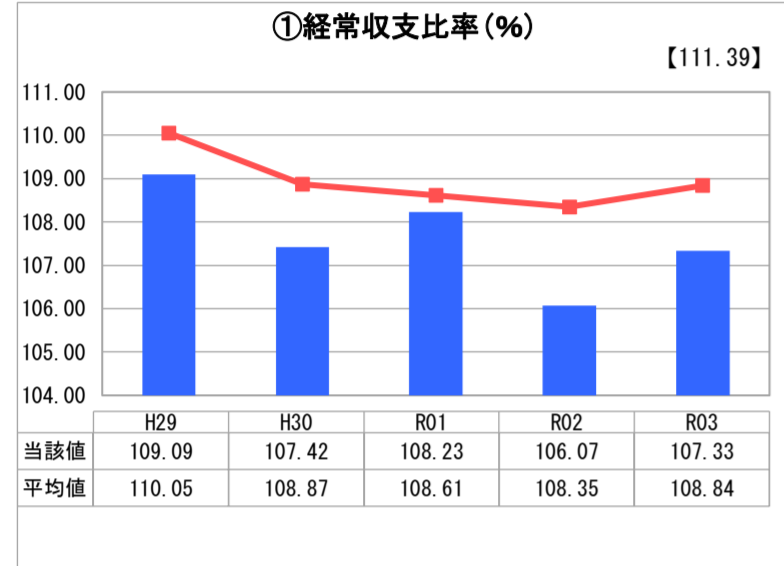
北海道 留萌市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	42.21	98.72	4,647	

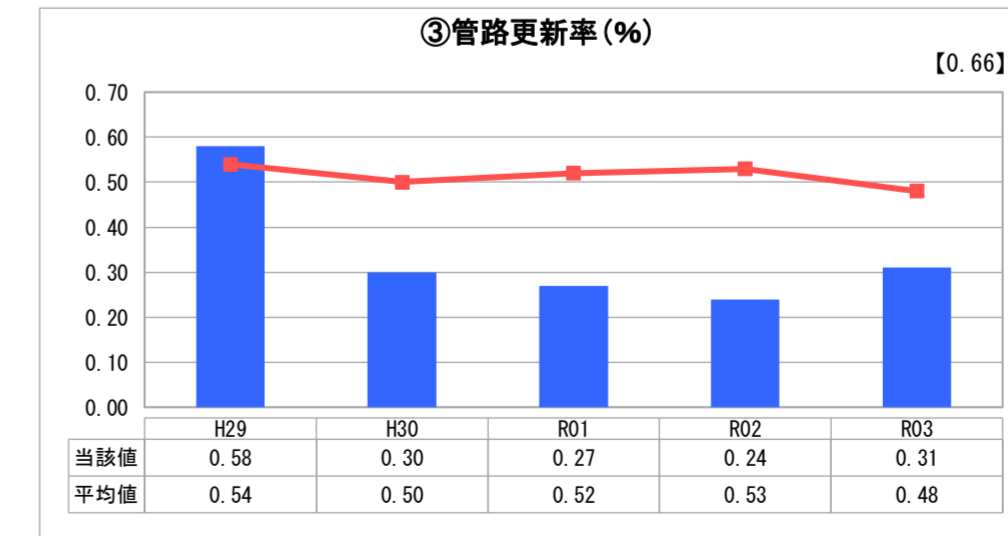
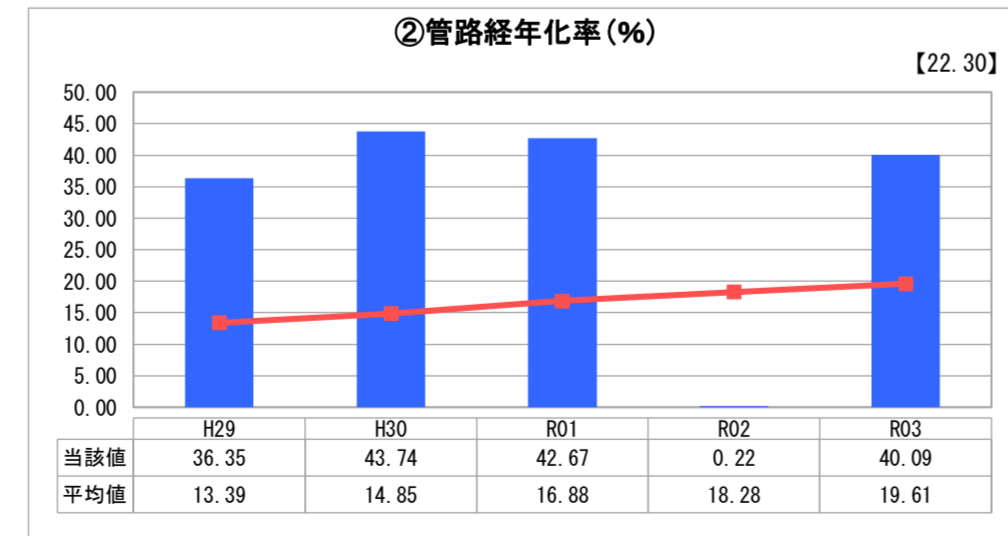
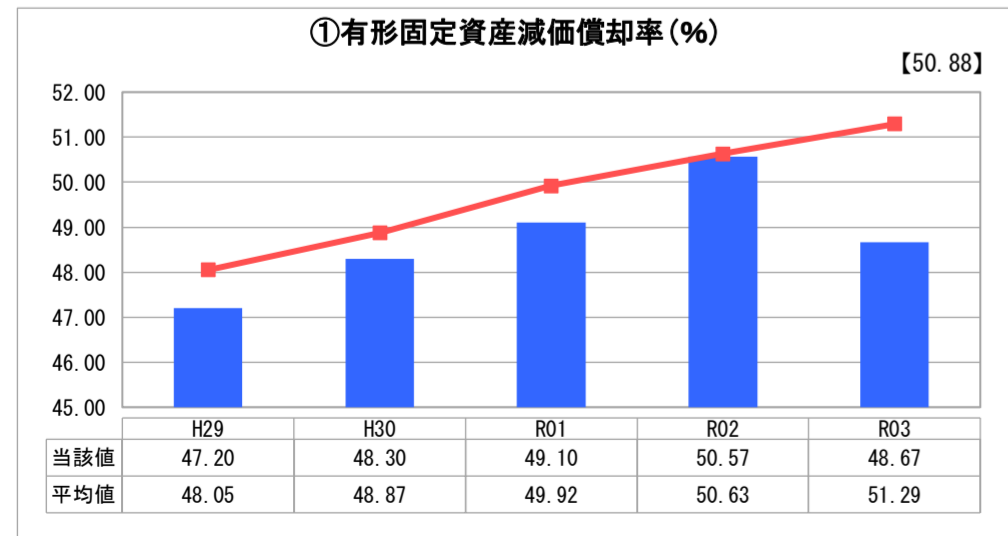
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
19,739	297.84	66.27
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
19,233	17.98	1,069.69

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は類似団体と同水準で100%を超えており、累積欠損金はない状態を保っている。流動比率は類似団体に比べ低く比率も100%を下回っているが、建設改良費等に充てられた企業債によるものであり、経営の健全性は維持されている。企業債残高対給水収益比率は類似団体に比べ高いが、投資事業の大半を企業債で賄っているためであり、今度も企業債の借入れは必要となるが、経営戦略に基づく計画的な投資を行い、起債残高を減少させたい。料金回収率は類似団体と同水準ではあるが、100%に達していない状況であり、令和4年度に基本料金・超過料金一律10%アップの料金改定を行った。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は年々増加しており、老朽化が著しい状態である。特に管路の老朽化が進んでいるが、これは平成17年度までの拡張事業の推進や、その間の浄水場・配水場の更新工事により、配水管網更新事業が遅れる結果となったためである。今後も大規模な水道施設の更新事業が控えており、早急の改善は難しいが、アセットマネジメントに基づき管路更新を継続し、改善を目指す。

## 全体総括

現在、収益的収支は黒字を維持しているが、人口減少による料金収入の減少は続いており、令和4年度には料金改定を行った。しかし、投資額の増加により資本的収支不足額も大きくなり、運転資金も年々減少している。今後も経費削減等の経営努力を進め、平成30年度に策定した経営戦略やアセットマネジメントに基づき、計画的な施設更新を進めていく。

2. ②管路経年化率  
R02 47.00%